

吉田忠生*： 二，三海藻の命名法上の問題点 (2)

Tadao YOSHIDA*: Nomenclatural notes on some
Japanese marine algae (2)

岡村の「日本藻類名彙」の初版(敬業社, 東京, 276 pp)は1902年2月15日に発行されており, この中で発表された種類はラテン語の記載や図を伴わないが, 国際植物命名規約¹⁾第36条の例外規定により正当で合法的なものと思ふべきである。コンブ類については前報²⁾に述べた。その他新種の記載として次の様なものが含まれている。

Eucheuma amakusaensis OKAMURA, p. 35 アマクサキリンサイ

Polysiphonia crassa OKAMURA, p. 62 フトイトグサ

Crouania divaricata OKAMURA, p. 79

Spyridia elongata OKAMURA, p. 80 ナガウブゲグサ

Halysyeris angustissima OKAMURA, p. 110 ホソヤハズ

Halysyeris divaricata OKAMURA, p. 110 エゾヤハズ

Halysyeris latiuscula OKAMURA, p. 111 ヤハズグサ

Codium subtubulosa OKAMURA, p. 189 ウツロミル

Codium intricatum OKAMURA, p. 190 モツレミル

Codium coactum OKAMURA, p. 190 ネザシミル

このうちからネザシミルに関すること, およびその他問題となるべきエゾイシゲについて述べ, またそれら以外でも日本産の海藻の名前として現在用いられているものの中に先取権の点から非合法なものがいくつかあるので, 以下に列記する。

6. ネザシミル

日本藻類図譜 (3:141. pl. 134, f. 4-12. 1915) が原記載として一般に受け入れられており, その時の種小名 *coarctatum* が以後用いられている。しかし日本藻類名彙初版190頁で「体ハ扁平ニシテ地平ニ開張ス, 然レドモ其全裏面ヲ以テ他物ニ附着セズ; 枝ハ相重畳シテ互ニ癒着ス」という検索表としての diagnosis をつけてあるので, この方が最初の発表と見做さなければならない。そしてこの時には *coactum* の種小名が用いられているので, 当然この綴りが採用されるべきであり, 引用は次の様になる。

Codium coactum OKAMURA, Nippon Sorui Meii 190. 1902.

* 北海道大学理学部植物学教室 (060 札幌市北区北10条西8丁目)
Department of Botany, Faculty of Science, Hokkaido University, Sapporo, 060 Japan.
Bull. Jap. Soc. Phycol. 25: 71-74, 1977.

syn.: *Codium coarctatum* OKAMURA, Icon. Jap. Alg. 3:141. pl. 134, f. 4-12. 1915; Nippon Sorui Meii ed. 2. 262. 1916; Nippon Kaiso Shi 124. 1936.

7. エゾイシゲ

学名はふつう *Pelvetia wrightii* (HARVEY) YENDO と引用されている。しかしこの名前のもととなった basionym の *Fucus wrightii* HARVEY 1859 は *Fucus wrightii* TURNER 1811 の later homonym であって、非合法的な名前であるから、それに基く組み合わせも非合法であって使用できない。

Pelvetia wrightii の名前は岡村がその「名彙」1902:138 において初めて用いたものである。ここで極めて簡単ではあるが検索の形で「体ハ大ニシテ太ク、気胞ハ多少明ナリ; 本州北部ニ産ス」と diagnosis を与え、*Fucus wrightii* HARVEY を synonym として引用している。命名上は命名規約第72条の Note に従ってここで新名が与えられたとして、*Pelvetia wrightii* OKAMURA と用いるのが正しいと判断される。

8. ヒメユカリ

この種類は岡村が *Plocamium ovicornis* OKAMURA として発表したものである。その後 DE TONI が Nuova Notarisia において岡村の論文を紹介した中で *Plocamium oviforme* と断りなく綴字を変えており、以後ずっとこの綴りで用いられて来ている。けれどもこれには綴字変更の理由がなく、最初のものを用いるべきである。

Plocamium ovicornis OKAMURA, Bot. Mag. Tokyo 10:23. pl. 3, f. 3,4. 1896.

syn. *Plocamium oviforme* OKAMURA, in DE TONI, Nuova Notarisia 1897:20; Syll. Alg. 4:590. 1900; OKAMURA, Nippon Sorui Meii 46. 1902; Nippon Kaiso Shi 616. 1936.

9. ハネクスダマ

伊豆須崎産の材料で岡村と瀬川により *Pleonosporium pinnatum* という名前のもとに発表された。この *pinnatum* の種小名はすでに *Pleonosporium pinnatum* (CROUAN frat. ex J. AGARDH) DE TONI として存在するので、日本産の植物には later homonym で使用できない。そこで次の様に新名を用意した。

Pleonosporium segawae YOSHIDA nom. nov.

= *Pleonosporium pinnatum* OKAMURA et SEGAWA, in SEGAWA, Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Hokkaido Univ. 1:191. f. 10. 1936.

non *Pleonosporium pinnatum* (CROUAN frat. ex J. AGARDH) DE TONI, Syll. Alg. 4:1306. 1903.

10. シオグサ属の3種

日本産シオグサ属に関する阪井の研究²⁾に収められている種類のうち、ヒメマリモ、チャボシオグサ、ミナミシオグサについては、その学名が命名規約上違法であるので、新名を次の様に提案する。

Cladophora okadae SAKAI et YOSHIDA nom. nov. ヒメマリモ

= *Aegagropila sauteri* var. *minima* OKADA, in KOBAYASHI et OKADA, Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo 32:101. f. 3,4. 1953.

= *Cladophora minima* (OKADA) SAKAI, Sci. Pap. Inst. Algal. Res. Hokkaido Univ. 5:79. 1964.

non *Cladophora minima* (FOSLIE) DE TONI, Syll. Alg. 1:338. 1889.

Cladophora okadae f. *crassa* (SAKAI) SAKAI et YOSHIDA comb. nov. フトヒメマリモ

Basionym: *Cladophora minima* f. *crassa* SAKAI, Sci. Pap. Inst. Algal. Res. Hokkaido Univ. 5:83. f. 40. pl. 10, f. 1. 1964.

Cladophora ryukyensis SAKAI et YOSHIDA nom. nov. チャボシオグサ

= *Cladophora fastigiata* HARVEY, Proc. Amer. Acad. 4:333. 1859; SAKAI, Sci. Pap. Inst. Algal. Res. Hokkaido Univ. 5:52. f. 24. pl. 1, f. 1. 1964.

non *Cladophora fastigiata* KÜTZING, Phyc. Gen. 269. 1843.

Cladophora meridionalis SAKAI et YOSHIDA nom. nov. ミナミシオグサ

= *Cladophora patula* SAKAI, Sci. Pap. Inst. Algal. Res. Hokkaido Univ. 5:22. f. 6,7. pl. 3, f. 2. 1964.

non *Cladophora patula* ZANARDINI ex FRAUENFELD, Alg. dalm. Küst. 12. 1855.
原稿を校閲して下さった北海道大学理学部黒木宗尚教授に深謝する。

Summary

A species of *Codium* currently known as *Codium coarctatum* must be spelled *C. coactum*, because this species was first validly published in OKAMURA's "Nippon Sorui Meii" 1902. Author of the species name *Pelvetia wrightii* must be cited as OKAMURA, not as (HARVEY) YENDO, since *Fucus wrightii* HARVEY 1859 is later homonym of *Fucus wrightii* TURNER 1811, in accordance with the Article 72 of the 'Code'. OKAMURA validly published the name. The name *Plocamium oviforme* was erroneously cited by DE TONI instead of *Pl. ovicornis*. Therefore the latter name should be used.

New names, *Pleonosporium segawae* YOSHIDA, *Cladophora okadae* SAKAI et YOSHIDA, *Cladophora ryukyensis* SAKAI et YOSHIDA and *Cladophora meridionalis* SAKAI et YOSHIDA are proposed for *Pleonosporium pinnatum* OKAMURA et SEGAWA (non DE TONI), *Cladophora minima* (OKADA) SAKAI (non DE TONI), *Cladophora fastigiata* HARVEY (non KÜTZING) and *Cladophora patula* SAKAI (non ZANARDINI ex FRAUENFELD), respectively.

引用文献

- 1) STAFLEU, F. A. *et al.* (Editors) (1972) International Code of Botanical Nomenclature. A. Oosthoeks, Utrecht: 1-426.
- 2) 吉田忠生 (1976) 二, 三海藻の命名法上の問題点. 藻類 24: 143-145.
- 3) SAKAI, Y. (1964) The species of *Cladophora* from Japan and its vicinity. Sci. Pap. Inst. Algal. Res. Hokkaido Univ. 5: 1-104.

□ Ralph A. LEWIN ed.: **The Genetics of Algae**. Botanical Monographs Vol. 12. 360 pp. Blackwell Scientific Publications, Oxford. (1976) 価格は邦価にして約9,400円。

その重要性を認識し、近代生物学的手法により藻類の遺伝の研究を最初に行なった学者はパッシャー (A. PASCHER) であるという。緑藻クラミドモナスを用いて彼の研究の成果は1916年に予報として出され、次いで詳しい本論文は1918年に出版された。パッシャーはまた若干の予備的研究結果とともに、緑藻サヤマドロが遺伝の研究に好適な材料であることを述べた論文も同年に出している。スクリプス海洋研究所教授の LEWIN 博士の編集により今回出版された「藻類の遺伝学」には、付章としてこれらの記念すべきパッシャーの論文 (独語) が英文に訳されて掲載されている。また他の付章には、1930~1940年代に華々しい脚光を浴びて登場したメーヴス (F. MOEWUS) のクラミドモナスなどの性決定物質や遺伝に関する一連の研究結果が、戦後追試実験を行なったアメリカのいずれの学者達によっても殆んど再現することができなかつたという、いわばこの学問分野の研究の裏面史的性格をもった内容も盛られていて興味をそそる。さて、13章からなる本文はどうかというと、ここには最近急速に発展を見た藻類の遺伝学がそれぞれの分野の第一線の研究者により総説的に記述されている。内容は藍藻の mutants を用いての遺伝子交換、緑藻クラミドモナスの鞭毛、細胞壁、葉緑体の遺伝などから、ボルボクス類、接合藻類、アオサ、カサノリ、シャジクモなどのメンデル性遺伝学にまで及ぶ。最近、流行語の一つに「藻類の生物学種の認識へのアプローチ」などがあるが、その方面に興味を持たれる方には本書の後半部はよいガイドの役を果してくれる。

(筑波大学生物科学系 千原光雄)